

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392300162		
法人名	有限会社たつみ		
事業所名	グループホームほっと		
所在地	愛知県瀬戸市宮里町27-1		
自己評価作成日	平成28年11月28日	評価結果市町村受理日	平成29年 2月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosvoCd=2392300162-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアに力を入れています。例えば、ウナギが食べに行きたい。近郊の新聞にゆりの花が綺麗だそうだから見に行きたい。百貨で園芸用品を買いに行きたい。花の苗を買いに行きたい。服を見に行きたい。近くの商店街にいきたい等なるべく個人の望みを出る限り叶えてあげたいと思います。無理のないケアプランを職員全員が把握して実施し毎月の職員会議にて評価しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の突然の交替があり、新管理者にとっては着任早々の評価となった。管理者は法人理念である「普通の家で生活し 楽しい人生を送る」の実践を目指しており、利用者の高齢化や重度化は進んでいるが、可能な限り普通の暮らしを提供しようとしている。
特に「外出支援」には重きを置き、自由にホーム外に出て裏庭の花や盆栽に水やりをする利用者がある。天候さえ許せば、職員はわずかな時間を見つけては利用者を散歩に連れ出している。訪問調査当日には、昼食前の30分ほどの時間を利用し、1名の職員が車いすの利用者と自立歩行が可能な利用者連れて散歩に出かけて行った。他の1名の職員が、調理をしながらホームに残っている利用者の見守りを行っており、職員間の連携は十分に取れていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「普通の家で生活し楽しい人生を送る」ホームの玄関に掲示しており職員、家族、来訪者にも目に留まる。職員は常に自分の家に居るような気持ちで日常を送れるように努めている	「普通の家で生活し 楽しい人生を送る」との法人理念を掲げ、重度化が進む利用者であっても、普段通りの生活が送れるように支援している。日常の散歩も、当たり前のこととして実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所して一年半ですが、散歩時などに挨拶やおしゃべりをして知って頂くよう努めている。地域のお祭りや運動会に参加した	「地域交流」が、ホームの課題として運営推進会議でも取り上げられた。出席した市の担当者からは、「特別なことをせず、散歩の時に顔を覚えてもらえば」との助言を得た。	時間が許せば、常に外出しようとのホームの姿勢があり、市の職員のアドバイス通りの実践で、地域との距離は必ず縮まってくると思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ地域の方々には理解を得たり支援の方法をとっていないこれから努力していきます		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々や家族、利用者も出席いろいろな意見やご要望を出して頂きみんなで検討し改善するところは見直し後日報書として配布しています	市、地域包括支援センター、組長、民生委員、婦人会会長、地域住民に家族の代表と、多彩なメンバーが集まる。目標達成計画に「地域との交流・連携」を取り上げていることから、運営推進会議でも討議している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やその都度、気軽に相談や助言に乗って頂いている。また、地域包括の方々にも利用者と散歩しながら寄って話している	運営推進会議には、市の担当者や地域包括支援センターの職員が必ず出席しており、ホームの状況は把握されている。市の担当者からは、会議でも有効なアドバイスが得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていなかったが、利用者の一人が3回ほど一人で出て行ってしまったので家族の了承を得て今は安全のため施錠をしている。その他の拘束はしていない。定期的にマニュアルうい熟読している	利用者の無断外出が続いたため、やむなく玄関ドアを施錠することとした。裏庭の花や盆栽への水やりのためにホーム外に出る利用者があるが、役割を終えると自身でホームに帰ってくる。	玄関の施錠を常態化させず、利用者の状態や職員配置、見守り態勢等を考慮し、日中の少しの時間帯であっても施錠を解く取組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員はテレビなどの報道や運営推進会議などでも話題になり虐待防止について周知している。また、定期的にマニュアルを熟読している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者一名が成年後見人を立てている。職員も今後、社内研修で権利擁護制度も勉強をしていきます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約時に十分な説明をしている。また改定時その都度同意書を交付して同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見や要望箱が置いてあるが今までで記入されたかたはいない。職員に直接話して頂いている	家族会を年間4回開催し、家族の意見・要望を聞き取る機会としている。写真集「ホット笑顔便り」が3～5ヶ月ごとに発刊され、玄関に設置されている。利用者個々の情報を綴った「手紙」が毎月家族に届けられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は相談しやすい関係をもっているつもりです。困難なときには代表を交え解決できる体制をもっている。	職員の退職があり、職員の適正配置の関係から受け入れ利用者を6名に限定せざるを得ない状況である。外国出身の職員を雇用したが、「言葉」や「記録」等の課題が解決を見えていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面などは代表者に一任しているが、毎日の職員の評価は管理者に任されている。労働条件などは職員が働きやすいように代表者に相談している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は定期的に社内研修をしているが、その他の職員も社外研修を受けられるよう努めて行きます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が11月に変更になったばかりで、まだ、他事業所との交流をしていない、一部の事業所とは名刺交換をした。今後管理者を始め職員も交換研修をしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者には常に挨拶を心掛け、ホームでの居心地はどう?とよく聞きます。毎日の忙しい業務の中で利用者の隣に座りよく話を聞きます。利用者や家族にも言い会える関係を作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安に感じていることを十分に受け止め信頼関係作りに努めている家族にもその都度ご要望やご意見、ときにはお叱りを受ける時もありました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から本人の生活歴を伺いなるべく今までの生活リズムに沿って本人は混乱しないよう見守り援助をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者には教えてもらう場面が沢山あります。また、家族ではないが、娘や孫のように接している。毎日穏やかに暮らしていただけるよう言葉かけに配慮している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気づきを報告している。家族の来所時には個別記録を読んで頂いている私たちは家族と共に本人を支えていきます		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩をしているとよく声をかけて頂きます。また、馴染みの病院でも「元気だった」と声をかけて頂きます。ホームにも親戚のかたが気軽に訪問して下さっています。また毎週日曜日には喫茶店に行く利用者もいます。	男性利用者の許に、かつて勤めていた会社の社長から年賀状が届いていた。娘さんの家族が写った年賀状には、姪に宛てて返信の年賀状を出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操では全員が集まりみんな楽しんでます。利用者同士の会話には耳を傾け話を聞くようにしています。洗濯物たたみや食器拭きなどは自発的に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者はいないが、退職した職員はよく訪問してくれています。近くの商店街でお店を開店した元職員のところには利用者も懐かしそうに話しをしていた。よく遊びにいきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いは会話から察し声かけをしている。うまく表現できない人には表情や動作から察知するように心がけている	リビングの壁に大きな日本地図(旅の思い出)を貼り、これまでに旅行した場所を書き込んでいる利用者がいる。東北、関東、四国、九州、沖縄・・・、次なる夢は、東京スカイツリーに行くことである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と共に昔話をしたり自宅にいた頃と同じように趣味が続けられる環境を整えている。生活歴はよく把握して好きなこと嫌いなことをよく周知するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人一人の状態を把握し出来ないことよりもできることに注目し能力を発揮して頂けるような声掛けをしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとに本人、家族にご意向を伺い介護計画を作成している。毎月の職員会議ではモニタリングを行い日々のケアにつなげている	毎月の職員会議(ケアカンファレンス)でモニタリングを行い、3ヶ月ごとに介護計画を見直している。利用者の思いを汲んだ介護計画も多く取り上げられている。	外国籍の職員に介護計画の内容が十分に伝わらず、不測の事態を招いたこともあった。日本語の「読み・書き」をマスターさせる取り組みを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の介護記録を確認し情報を共有している。必要があれば介護計画の見直しも柔軟におこなっていく		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医など馴染みの病院の通院も柔軟に対応している。また要望があればその都度対応していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店街まで散歩し買い物をしたりおやつの時間を過ごしている。また前職員のお店に行く利用者は大変喜ばれる。ホームの近くに住んでいた利用者は散歩中に知り合いに合ったり妹さんともお会いする		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望もあり馴染の歯医者や眼科に通院介助をしている。時間の余裕があるときは欲しいものの買い物などにも付き合っている	毎週、連携している訪問看護ステーションから看護師が来て、利用者の健康管理を担当している。訪問調査当日も看護師が訪問しており、利用者のバイタルを取ったり、貧血や骨粗しょう症の治療をしていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護職がいないため毎週水曜日に訪問看護ステーションと契約している。利用者の状態を気兼ねなく相談ができる。いつでも電話等で相談が		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの情報提供しこまめにお見舞いに行き利用者の状態を把握し、ケアカンファレンスに参加しなるべく早い退院に向け病院との連携をしていく		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族のほとんどが病院ではなくホームでの看取りを希望している。状態にもよるがなるべく本人家族の望む最後が迎えられよう、主治医、訪問看護と相談しながら支援していく	ホーム開設2年目ということもあり、まだホームでの看取りの経験はないが、職員は系列ホームで経験を有している。利用者・家族の要望があって、医療行為がないこと等の条件が揃えば、ホームでの看取りを実施する考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署を招いてAED、緊急時の対応などを学んでいる。また事業所内には緊急対応マニュアルを掲示してあり職員会議に確認しあっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月ごとに地震や火災を想定し防災訓練をしている。また、新入社員には必ず参加するようにしている。	職員だけでなく、利用者にも習熟度を高めてもらうため、2ヶ月に1度防災訓練(避難訓練)を実施している。また、夜間を想定した訓練の実施がない。	早期に、夜間想定避難訓練の実施が求められる。夜間の災害時には、地域住民との連携も必要となることから、運営推進会議の議題として話し合うことを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室に入る時には必ずノックをしておいておしゃべりしています。トイレ介助にも羞恥心を損ねない様配慮している。	思い通りに事が進まない、激怒して杖を振り回す利用者がある。職員はその利用者の心情を察し、(力づくで押さえつけず)利用者が頼りとする後見人に連絡して来てもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気が進まないことや嫌いなことなどはこちらの都合であるのではなく本人に聞きながら支援していく		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや体操は全員でやって頂きたいが気分がすぐれなかつたりやりたくないときもあるので無理強いはいしない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は当たり前だが自分でできないひとには援助する。顔拭きはほっとタオルを使用している。入浴時なども自分の着たい服と一緒に選ぶようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決めていないので、その日に食べたいモノを聞いて作っている。嫌いな物があるときは一品でも好きな物を作るようにしている。野菜を切ったり、炒めたりは利用者も参加している。食器拭きは自主的にやって頂いている	食材業者から、週に数回食材が届く。足りないものがあれば、職員(管理者)が買い出しに出かけている。重度化が進んでおり、調理への利用者参加はほとんど期待できない状況である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おかゆやミキサー食、きざみ食など本人の状態に合わせて対応している。水分があまり取れない人にはゼリーやプリンなど甘いものを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアをしている。歯の状態が悪い人には歯科へ受診できるよう支援している。スポンジ歯ブラシ、舌下ハブラシなど本人にあわせたハブラシを使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意があってもトイレの場所が分からない不安がある場合は職員が誘導して安心して排泄が出来るよう介助している。排泄時間ではなくトイレに行きたい時はすぐに対応している	重度化は進んでいるが、極力トイレで排泄できるように支援している。時間はかかるが、職員は手引きで利用者をトイレまで誘導していた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は個人差があるため水分や食事内容の献立に葉野菜、イモ類、豆、きのこなど繊維質に富んだ食材を考えている。朝食にはヨーグルト、バナナなど提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回入浴をしている。ときには入浴剤を使用しリラックスされている。入浴嫌いのひとはさりげなく着脱の手伝いをして顔にタオルを覆い手早く洗髪をするようにしている。入浴後は好みの飲み物を提供している	入浴を嫌う利用者がいるが、無理強いせず柔軟に対応し、ほとんどの利用者が週に2～3回の入浴を果たしている。午後の時間帯に入浴が設定されており、入浴後には好みの飲み物が提供されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の活動が終わり安心して寝て頂けるように空調や寝具なども配慮している。就寝時間も決めてなく眠くなったら部屋で休んで頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は誤薬が内容、日時、名前、を声を出して確認をしている。主治医からの処方箋は必ず確認している。訪問看護師や主治医、調剤薬局には気軽相談できる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食べ物の好き嫌いは可能な限り別の物を用意している。時には好きな物を食べに外出する。入居前からの趣味(園芸)ができるように支援している。唄が好きな人にはCDを聞きながら歌えるような雰囲気作りをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの深川神社や喫茶店、すし屋などに出掛けたり年に1回だが家族も誘いバスを借り切って出掛ける。ご本人が見たい行きたいと言われれば可能な限り実現できるよう支援しています	天候と時間が許せば、職員は利用者を散歩に誘うことが日課となっている。訪問調査当日には、昼食前の30分くらいの時間を利用し、1名の職員が車いすの利用者と自立歩行の利用者を連れて散歩に出かけて行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でサイフを持って管理をしている人は2名いらっしゃいます。そのほかはおこずかいを家族から預かっているのでも欲しいものを購入できる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話は一人の方はもっている。自分から電話をかけたいというひとはいないが、いつでも家族には電話をかけることはできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりがよくとても明るい居間でほとんどの時間はここで過ごしている。眠くなったら自分の部屋で休む人もいます。特に騒音などもなく静かな環境になっている	朝のコーヒータイムが終わると、広いリビングでラジオ体操が始まった。立位が保てる利用者は1名だけであるが、椅子に座って全員が参加していた。玄関に2つの水槽があり、金魚とメダカが飼われている。餌やりは男性利用者の仕事である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で作品作りをする人。音楽を聴く人、ソファでゆっくりテレビを見る人と様々。好きな場所で過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋にはご家族の写真や誕生日会のお祝いの写真など掲示してある。また日にちの確認のため時計やカレンダーが置いてある人もいます。奥様の仏壇に花を生けているかたもみえます。全体的に整理しやすいようになっている	亡くなった奥様の位牌と遺影を丁寧に配した居室があった。造り付けの大型クローゼットがあり、夏服はクローゼットに収納し、冬服は居室内の洋服掛けに掛けてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわからない人には見やすい所に自分の名前を書いてある。トイレはわかりやすいように大きく書いてある。廊下には転倒しない様手摺りがある		